

新校長に長田OB

御挨拶

前校長 小山 智久

玉田敏郎理事長、三宗司郎前理事長をはじめ、神撫会の皆様、在職中大変お世話になり、感謝申し上げます。

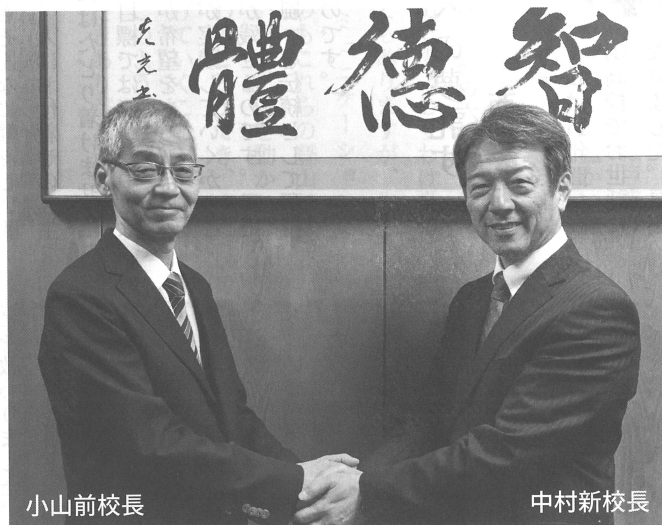
思い返せば、卒業生でも旧職員でもない私と、長田高校・神撫会との出会いは、着任の辞令交付より1週間早い2016年3月24日、場所は甲子園のアルプススタンドでした。強豪高校を相手に、全く臆することなく気迫の戦いをした野球部。その活躍を後押しするスタンドから溢れるばかりの大応援団。試合が進むにつれ、粘り強さや素直さといった長田生の気質や、保護者や卒業生、その他の長田高校ゆかりの方々に広がる人脈と長田高校に対する情熱を、具体的になかたちで感じる事ができた一時でした。

在職1年目は、甲子園出場の名残というか、どこにいても賞賛を受け、出場した選手に申し訳ない気分になったものでした。2年目には部員がボカリスエットの鬼ガチダンス選手権に応募してくれたことが縁となって、ダンス部を中心とした150名の生徒によるボカリダンスの撮影を行い、全国放映されました。CMで流された「潜在能力をひき出せ。」「自分分は、きっと想像以上だ。」のコピーは長田生へのエールのようなものであり、また、CMをご覧になった卒業生や地域の方々からは現在の長田生の潑刺とした姿や背景の校舎に愛情のこもった感想が届けられました。何よりこれから長田高校入学を目指すという中学生には長田高校の校風の強力な発信になりました。

3年目には、2020年に控えた長田高校100周年記念事業の一環として作成していただいたリカちゃん人形が大好評で、大勢の卒業生から問い合わせがありました。また、県政150周年記念事業で音楽部員が作詞・作曲した記念歌を8月に長野県で行われた全国総合文化祭で披露することができ、3月16日に兵庫県公館で行われた県のフィナーレイベントのオープニングでも演奏してくれました。このイベントでは卒業生の水澤節子氏も兵庫ゆかりの曲「ミニコンサート」で出演され、長田高校の文化力の高さを感じました。

在職中は全力を出し切る生徒の姿とともに、卒業生の方々の活躍に自身の考え方・生き方に刺激を受け続けた3年間でし

ました。最後に、神戸の神撫会の皆様だけでなく、東京支部、東海支部の皆様、ご交誼を賜り、誠にありがとうございました。長田高校の100周年記念事業の成功と神撫会の益々のご発展を祈念して、退職のご挨拶とさせていただきます。



小山前校長

中村新校長

「Adastra」

「星にいたらん望みもて」

新校長 中村 晶平

本年4月、前任の小山校長先生のご勇退の後を受けて、着任いたしました。私は本校31回生の生徒として3年間、平成5年度から13年度まで教諭として9年間それぞれ本校にお世話になりました。そしてこの度、立場も変わって管理職として三度お世話になることとなり、来年度、創立百周年を迎える母校の記念事業に関われることは、この上ない幸せとともに、その責務の重大さを感じております。

本校は大正10年4月にその前身である県立第三神戸中学校が開校して以来、99年の歴史を重ね、地域社会からも信頼され、県下のみならず、全国的にも「兵庫県に長田高校あり」と評されるところとなっています。現在では進学実績だけでなく、本校の学風も含めた魅力・特色に魅かれて、平成27年度からの

学区改編以降、神戸市内全域のみならず、芦屋、淡路地区からも生徒が入学しています。

本校の教育理念は初代校長 近藤英也先生が「神撫教育」を教育方針として掲げられ、以来、その3つの指針が教職員や生徒に脈々と受け継がれています。

一つ目は、「智・徳・体」のいずれにも偏らず、これを調和統一して発達を目指すこと。二つ目は、どのような人にも恵まれた一芸一才があり、個性を見いだし、個性を伸ばすこと。三つ目は、「学ぶ」ことによって人間としてのあり方を自分で考えることです。

この「神撫教育」こそが、本校教育の根幹であり、大正・昭和・平成・令和へと時代が変われども、文武両道のバランスのとれた人材の育成に繋がっているのでしょう。

本校では、情報発信能力、課題解決能力と高度な英語コミュニケーション能力の伸長のために、平成25年度から「人文・数理探究類型」を設置し、課題研究と高大・産学連携を軸とした社会のリーダーを育てる教育活動を展開しています。さらに、豪州への短期海外研修の継続とともに、中国広東省佛山市第三中学との交流を深める国際理解教育も推進し、世界で活躍するグローバルリーダーの育成を目指してまいります。

神撫会の会員の皆様には、今後も母校の活躍をご期待いただくとともに、来年度の創立百周年に向けて、本校教育の充実・発展に一層のご理解とご支援を賜りますことをお願いして、着任のご挨拶とさせていただきます。